

『確かな学力の定着と向上を目指す学習指導法の実践的研究』

～学習活動における指導の工夫と評価の実践を通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 各教科研究による授業改善
- (2) 評価方法の改善（中間評価シート）
- (3) 一人一授業実践の実施
- (4) アンケートによる生活習慣・学習習慣の実態把握と考察
- (5) 新教育課程の研究

2 研究の概要

- (1) 思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成
 - ①思考・判断・表現などが必要になる課題解決的な学習の推進
学習形態等を工夫することにより、生徒同士が教え合ったり、学び合ったりする学習活動を通して、思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成を図る。
 - ②自分自身の生活との関係で考えたり、表現したりする授業の工夫
生活との関連の中で思考したり、判断したり、自分の考えや感情を表現したりするなど、学習と生活とのかかわりを重視した授業を推進することにより、学習に対する関心・意欲の向上を図る。
 - ③発表や話し合いなどにより、学びの質を高める指導の工夫
生徒の実態に合ったグループ活動に適した課題の設定をし、自分の考えと他者の考えを比較検討するなかで、確かな学びとなるような授業を工夫する。
- (2) 指導と評価の一体化を図り、フィードバックを充実させることによる基礎・基本の定着
 - ①生徒の発言やつまづきの分析をもとにした適切な支援
教師及び生徒相互の適切な支援により、基礎・基本の定着を図る。
 - ②評価内容及び評価方法の改善
学習内容や学習目標を明確にするとともに、相互評価や自己評価等を活用することにより、学習を振り返り自己学習力の育成を図る。
- (3) 通信表・中間評価について検討
年4回行っていた通知カードを検証するとともに、長期休業前の中間評価についても検討する。
- (4) 一人一授業実践
 - (1)(2)の検証のために一人一授業実践を行い、教科・学年問わず、互いに研鑽を積み普段の学習指導に生かす。（Ⅱ期～Ⅲ期実施）

- (5) 基本的な生活習慣・学習習慣のアンケートを実施
 確かな学力を支える土台としての大切な基本的な生活習慣・学習習慣のアンケートを実施し、全校生徒の実態調査をして学習指導に生かす。
- (6) 新教育課程移行期間の教育課程の検討
 平成22年度の教育課程について検討する。

II 成果と課題

1 成果

- (1) 指導→評価→フィードバック→指導のサイクルにより実践的な学習指導につながり、
基礎基本の定着に役立った。
- (2) 通知カード・評価コメントから中間評価シートになり、生徒・保護者に向けてわかりやすく伝わりやすいものになった。
- (3) 一人一授業実践を通して、他教科・他学年の授業を見ることができ、生徒の授業のようすや指導方法などが参考になり、日頃の学習指導に生かした。
- (4) アンケートを行うことにより、生徒の生活習慣、学習習慣の現状把握ができた。また、アンケート結果と学力を照らし合わせ、生活習慣・学習習慣と学力の相関関係が明らかになってきた。

2 課題

- (1) 一人一授業実践を実施し、多くの授業を互いに公開したが、授業が重なり参観する先生が少ない授業もあった。研究主題にせまる内容としても、研究内容(1)(2)の検証するために、全体参加の研究授業で深めた方が有効ではないか。
- (2) 基本的な生活習慣・学習習慣のアンケート内容を精選するとともに、結果を家庭に還元することや、今後の指導にどのように生かしていくかが課題である。生徒の実態把握を継続していくことにより、変化も分かるので今後も継続していくのがよい。

III 成果物

1 一人一授業実践

国語「メディア社会を生きる」「文法 文の組み立て」

社会「武家政治のはじまり 鎌倉幕府の成立から」「原始・古代の日本と世界」

理科「物質の状態変化」

技術家庭（技術）「本・小物入れをつくろう」

技術家庭（家庭）「綿とポリエステル布の性質」

英語「はじめてのカナダ旅行」 他

2 中間評価シート

昨年度行っていた通知カード・評価コメントを中間評価シートに変更し、長期休業前の評価を分かりやすい形で伝えた。

3 基本的な生活習慣・学習習慣のアンケート

全校生徒について基本的な生活習慣・学習習慣についてのアンケートを実施し、生徒の現状把握をすることができた。
 （研究主任 奥山寿夫）